

令和4年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第5学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができない児童がいる。 ○目的や意図に応じて事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書いて覚えるだけでなく、言葉を発声したり練習問題を反復して解いたりする。 ○目的や意図を明確にし、事実と感想、意見を表にまとめたり、友達と交流したりしながら表現方法を工夫できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を指導するときに言葉を発声しながら覚えたり、漢字と仮名を適切に使い分ける場面を多く設定したりする。 ○目的や意図を全体で確認したり、事実と意見を全体で確認したりするなど、段階的に指導する。また、友達や教科書など、優れた表現方法について知る機会を設け、生かして書くように指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○用語や知識の定着はしている児童が多い。しかし、考えたことを友達に伝える、考えたことを整理し、記述する力に課題がある。 ○振り返りが、分かったことやまとめに書くこと（課題に対する答え）のみの記載で終わっていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを書く、友達に考えを伝える活動を多く取り入れる。 ○振り返りを書く時間の確保や、目標行数を決めて、書くという機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的な見方・考え方を働かせられるような資料（写真やグラフなど）、発問の整理によって、児童がより思考をする時間や、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○振り返りの視点を示し、書く上で参考にさせる。また、よい振り返りを授業の導入で紹介したりコメントを入れたりすることで、児童が自然と書けるような指導を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○知識は豊富だが、考え方の根拠を問われると答えられない児童が多い。 ○算数の言葉を使い、筋道立てて説明することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項と関連づけて、根拠を基に筋道を立てて考える。 ○他者の考えを受け入れ、よいところを自分の考えや表現に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を思い出させるような導入や発問をする。 ○ペア学習やグループ学習を取り入れることで根拠を基に説明する機会を増やす。 ○習熟度の低いコースでは、手順を一緒に確認するなどして、説明をする前に自信がもてるようにする。また、書くことが苦手ならば、口頭でしか説明ができなくても認める等、個に応じた表現方法を認め、自信をもたせる。習熟度の高いコースでは、誰のどんな説明がよかったのか考えさせ、次回にいかせるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○知識は豊富で、理解力も高いが、知識と生活事象とを結びつけて考えることが難しいときがある。 ○問題解決の方法を考える力は十分だが、実験・観察するうえでの条件制御の方法を向上させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の内容が、身近な現象と、どう関わっているのかを理解させるために、児童の身近にあること、興味関心のあることを取り上げ、理解を深めていく。 ○実験・観察を行うときに、変える条件を1つにする必要があることを理解したうえで、取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に実験する、観察する、体験することを大事にする。また、児童の経験してきたことと学習事項とを丁寧に照らし合わせるようにし、理解を深めさせる。 ○毎回、実験や観察を行う前に、全体で確認する。また、実験や観察の方法を考えたときに、条件制御を意識させるようにする。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○運動の特性に即して、自己の力に応じた各種の運動の基本的な技能を身に付けられていない児童がいる。</p> <p>○仲間の考えや取組を認めるなど、自己の最善を尽くして運動する態度が十分には養われていない。</p>	<p>○運動の特性を明確にし、児童の力に応じた基本的な技能の身に付け方を具体的に指導する。</p> <p>○仲間の考えや取組を知るよさに気付かせ、自己の最善を尽くせるように周囲の友達や教師、その他資料から学ぶ姿勢を身に付けさせる。</p>	<p>○授業の運動を他の運動と比較し、運動の特性について考えさせる。また、基本的な技能の身に付け方をいろいろな資料を活用し、技能を高められるように指導する。</p> <p>○動画を撮り合うなど、仲間や教師と関わり合い、客観的な助言をもらえるようにするよさを体感できる時間を設定する。</p>
音楽	<p>○概ねの児童が前向きな学習態度で取り組んでいる。</p> <p>○感染症対策のため、リコーダーの練習が十分に行えず、演奏技能には差がある。歌唱に関しては楽曲にふさわしい音色や表現を考えて演奏に生かせる児童が出てきた。</p> <p>○楽曲を聴いて感じ取ったことを文章にする力が高まっているが、感じたことを曲を形作る要素を結びつけて考える経験が十分ではない。</p>	<p>○学習のきまりをしっかりと身に付けさせ、定着させる。</p> <p>○状況に応じてリコーダー等の練習機会を設けるとともに、演奏の技能の向上を図る。また、楽曲の表現の方向性を旋律や歌詞から探り、曲想を生かした表現を工夫するようにさせる。さらに自分たちの演奏や歌唱を客観的に評価できるようにする。</p> <p>○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素を聞き取り、感じたことを発言や文章で表すことができるようにさせる。</p>	<p>○課題を明確にし、わかりやすく具体的に指導する。</p> <p>○スモールステップで練習を重ねることにより、基礎的な表現の能力を高めていくとともに、演奏や学習の振り返りをしっかりと行い、次に生かせるよう声かけをしていく。</p> <p>○聴き取ったことと感じ取ったことの間を考える経験を多くもたせるとともに、音楽的語彙を増やしていく。また、課題の評価の観点を明確にし、指導内容の定着を図るとともに達成感を感じ取れるようにする。</p>
図工	<p>○意欲的に取り組む児童が多いが、じっくりと構想を練って取り組むのが苦手な児童もいる。</p> <p>○後片付けについて、自分周辺の片付け・掃除だけで満足し、図工室全体をきれいにする気持ちが少ない児童もいる。</p>	<p>○授業の導入時に、参考作品を多く提示したり、友達の商品のよいところを共有したりするなどして、考える機会を十分に設定する。</p> <p>○みんなで使ったものも、自分事として、後片付け・掃除に取り組むように声かけを粘り強くしていく。</p>	<p>○いろいろなアイデアを見て、聞いて、じっくりと考える機会をたくさん設定する。</p> <p>○後片付け・掃除も大切な活動の一部であることを認識させると同時に、図工室をはじめ学校というところは、みんなで使っているものという認識をもたせる。</p>
家庭	<p>○初めての家庭科に、興味・関心をもって取り組んでいるが、自分の意見や考えに自信が持てないのか、発表をする児童が限られている。</p> <p>○被服実習では、男女ともに意欲的に取り組み、コツコツと楽しみながら作業できる児童が多い。生活経験の差が大きく、個別に支援が必要な児童も見られる。</p> <p>○調理実習が年間指導計画通りに実施できない状況が続くため、年間指導計画の入れ替えなどの工夫が必要である。</p>	<p>○自主的・主体的な参加型の授業づくりや、その中でもグループ活動の時間を多く設けることで、友達同士交流し、自分の意見や考えに自信をもてるようにする。</p> <p>○児童が製作途中で飽きてしまったり、嫌になって投げ出したりすることがないように、学習内容や指示の出し方を工夫する。また、個々の能力に応じた指導や声かけを行い、小学校の段階でできるだけ苦手意識をもたせないようにする。</p> <p>○調理に関する題材については、家庭と連携しながら進める。</p>	<p>○コロナ禍でのグループ活動の方法についてはタブレットやホワイトボードなどを用い、お互いの価値観や考えを共有したり深めたりして、自分の意見や考えに自信をもてるようにする。</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるため、手元見本や、ICT機器を使って資料や作業内容を視覚化し、より明確な指示を出す。</p> <p>○自分の技能や工夫などがステップアップできるように振り返りカードを利用し、学習の見通しをもたせ、学習段階や個々のつまづきを把握できるようにする。</p> <p>○机間指導を行いそれぞれの児童の進度や技能に合った支援や声かけをする。</p> <p>○調理の技能を高めるために、学校での学びを長期休暇などに家庭で実践できるように学習を計画する。</p>

外国語	<p>○慣れ親しんだ文や語から意味を類推し、理解しようとしている。</p> <p>○英語を使ってコミュニケーションを図ることに抵抗のある児童もみられる。</p>	<p>○間違いを恐れず、慣れ親しんだ文や語を使って、相手に伝える機会を多く設け、英語を発話することに慣れさせる。</p>	<p>○既習事項を活用できるよう支援する。</p> <p>○ペア・グループワークを取り入れ、児童同士で英語を使って、コミュニケーションをとる機会を作る。また、ALTを活用し、児童とやり取りする機会を設ける。</p>
-----	--	--	---